

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(平成26年6月)

～増税による落ち込みからの回復ペースはダウンする見通し～

- 景気ウォッチャー調査・6月調査の近畿地域の結果は、現状判断[方向性]が2ヶ月連続で上昇したほか、先行き判断も3ヶ月連続の上昇となった。
- 現状判断DIの上昇は、夏のボーナス支給もあり、消費増税による影響が前月に比べて若干小さくなったことが主な要因とみられる。まだまだ厳しい声も残っているものの、百貨店などを中心に、駆け込み需要の反動減の動きは前月よりも落ち着きつつある。ただし、業界によって回復の動きに差があるほか、同じ業界でも地域や取扱商品による差が大きいなど、回復のペースは非常にバラつきが大きいことも事実である。
- 一方、先行き判断は、駆け込み需要の反動減の動きがさらに落ち着くとの見方のほか、エルニーニョ現象に伴う冷夏の懸念が全国ほど大きくないこともあり、DIの小幅な上昇につながっている。とはいえ、原油相場の高騰に伴うガソリン価格等の上昇懸念から、消費マインドの低下を懸念する声も増えており、増税による落ち込みからの回復ペースはダウンする可能性が高い。
- この7月には、関西ではテーマパークでの新アトラクションの開業を控えており、国内外からの観光客の増加が予想されている。競合施設からは競争激化を懸念する声が上がっているものの、ホテルなどを中心に宿泊客の増加といった効果が見込まれている。

○夏のボーナス関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	な や や 良 く な っ て い る	百貨店(マネージャー)	・紳士服や雑貨、子ども服は前年比で微減にまで回復してきているが、家庭用品が8%減と回復しきれず、苦戦が続いている。ボーナス支給に期待して美術品や呉服、宝飾品の販促企画を強化したため、前月よりも回復したが、11%減と前年には届いていない。
		旅行代理店(広報担当)	・ボーナス支給が始まり、予想よりも良かったのか、夏休みの旅行申込に勢いが出てきている。7月15日にオープンするテーマパークの新アトラクションの予約状況は予想よりも良く、客の期待の大きさが表れている。
		通信会社(社員)	・6月のボーナスシーズンに入り、申込数が増えてきた。今のところは先月の落ち込みを取り戻してきている。
		その他レジャー施設[イベントホール](職員)	・当社の夏季賞与は昨年と比べて増加している。
雇用関連	な や 悪 く な っ て い る	百貨店(売場マネージャー)	・4月の動向は想定範囲内であり、5月もやや回復傾向にあったが、6月は順調な回復とはいえない。宝飾や家具などは動きがまだまだ鈍く、お中元なども単価は前年並みであるが、客数がやや減少傾向にある。ボーナス商戦の盛り上がりも今のところは感じられない。夏物商品ではサンダルが非常に苦戦するなど、ファッション関連が停滞傾向となっている。
		民間職業紹介機関(支社長)	・職場での引き止めや、賞与などの労働条件のアップによって、求職者が転職を思いとどまるケースが出始めている。

○原油価格の高騰関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	変わらない	百貨店（商品担当）	・収入の伸び以上に、原油価格の上昇などが家計を圧迫するなど、様々な要因があり、消費が活発化するとは言い切れない。
		スーパー（管理担当）	・もう1点の買い増しを期待したいが、原油価格などの値上がりもあり、原材料費への影響が懸念される。今後は販売価格に反映させざるを得ないため、あまり希望が見いだせない。
		スーパー（開発担当）	・原油価格の高騰により、また値上げの嵐が始まりそうである。
		乗用車販売店（経営者）	・新車の購入予約が減っているほか、ガソリン価格の高騰もあり、車の需要自体が減ってきている。
企業動向関連	やなる悪く	スーパー（店長）	・中東情勢の不安定化で原油価格が高騰しており、商品価格への影響が懸念される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今日、乗用車のガソリンを入れてきたが、価格が急騰しているなど、経営環境が悪くなっている。今後は状況を慎重に観察したいというのが、現在の心境である。
企業動向関連	やなる悪く	その他サービス業 [店舗開発]（従業員）	・消費税増税の影響がようやく一段落したと思った直後に、原油価格の高騰によるガソリンの値上げ問題が浮上している。今後の夏休みなどの行楽シーズンに、大きな影響を及ぼすことが予想される。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・消費税増税の影響がまだ残っているなかで、販売価格の競争が激しくなっている。販促物や印刷物の価格は限界に近づきつつあり、更に原油価格の高騰の影響も出てくる。今後は医療業界と製薬業界からの受注が中心となりそうである。

○テーマパークの新アトラクション関連のコメント(先行き判断)

家計動向関連	やなる良く	都市型ホテル（客室担当）	・テーマパークの新アトラクションによる特需が見込まれ、国内外から大阪市内を訪れる客が更に増える。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊はテーマパークの新アトラクション効果で、特に夏休みの先行予約が好調である。その一方、宴会部門の先行予約は前年よりも落ち込んでおり、定例会合の中止や縮小が目立つ。
	変わらない	都市型ホテル（マネージャー）	・夏休みシーズンとテーマパークの新エリアの開業により、宿泊部門は大きな増収が見込まれるが、宴会部門や食堂部門には影響がなく、特に食堂部門の回復は期待できない。
		旅行代理店（広報担当）	・このままの景況感が続き、新成長戦略やテーマパークの新アトラクション、世界遺産などの報道が続けば、客の動きも現状を維持できる。
	やなる悪く	テーマパーク（職員）	・競合施設が大規模なアトラクションをオープンするので、影響は避けられない。

(DIの推移)



(近畿地域のDI)

		年 12												年 13												年 14											
		月 6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6											
現 状 判 断	近畿	43.2	45.9	44.2	43.4	40.8	43.5	49.8	53.2	56.8	61.3	59.6	58.7	54.9	53.2	51.4	54.6	52.8	55.8	56.1	55.6	56.3	60.8	43.6	45.9	47.9											
	(全国)	43.8	44.2	43.6	41.2	39.0	40.0	45.8	49.5	53.2	57.3	56.5	55.7	53.0	52.3	51.2	52.8	51.8	53.5	55.7	54.7	53.0	57.9	41.6	45.1	47.7											
先 行 き 判 断	近畿	48.1	47.0	44.6	41.9	45.0	45.7	53.6	59.8	61.2	60.7	59.6	58.1	53.5	52.9	52.3	55.9	57.7	58.5	57.3	49.9	42.0	36.0	51.4	54.1	54.5											
	(全国)	45.7	44.9	43.6	43.5	41.7	41.9	51.0	56.5	57.7	57.5	57.8	56.2	53.6	53.6	51.2	54.2	54.5	54.8	54.7	49.0	40.0	34.7	50.3	53.8	53.3											